

冬来たりなば春遠からじ

No. _____

中国／高曉旻（コウギョウミン）

「If winter comes, can spring be far behind?」とは、「冬来たりなば春遠からじ」。寒くて厳しい冬が来たということは、暖かい春はもうすでに目の前まで来ているということです。イギリスの詩人シェリーの言葉で、私の座右の銘でもあります。

人生の旅路は、その道のりに平穏と順風満帆をみんながみんな期待して胸を膨らませて10代を過ごすでしょう。しかし、現実はその簡単にうまくいくものではないようです。

実は私は、日本に来る前に、ちょっと事情がありまして、長い間、不登校になりました。その頃の光景も、当時は非常に忌々しく思っていたのですが、今は、ただ微笑ましく思っています。

長い不登校の間、いつも優しくしてくれたお母さんも、だんだん、心が鬼と化して、いろいろな手段を講じるようになりました。「どうして学校に行かないの？」と泣きながら私に詰問するお母さんに対して、黙って何も言えない私。母は最終的に、私を家から、祖国から追い出して日本に留学させました。「日本で、人生をやり直して、今度は真面目に生きてください」と言っているかのようなお母さんの顔、私は多分、一生忘れられないと思います。日本へ来ることについて、私の気持ちは行きたい気持ちが半分、祖国や母のもとを離れて一人で暮らすのが怖い気持ちが半分でした。そして、当時の私は、母の親心も知らないまま、もしかして、うちのお母さんの頭に角が生えているのでは？とか、もしかして、実は私は、お母さんから生まれた子供じゃないの？みたいなくだらないことばかり考えていました。

でも、思い切って日本へ留学させてくれた母のおかげで、だめ人間だった私でも母の心に押されて小さな一歩を踏み出すことができました。上空1万メートルの飛行機の中で、窓の外を眺め、上空を見上げた私の心の中には、そのとき、小さな希望と勇気が芽生えていました。そして、カントの言葉を思い出しました。「我が上なる星きらめく天空とわが内なる道德法則。私はこの二つに畏敬の念を抱いてやまない。」本当にその通りです。日本で、一人暮らしを始めて以来、大変なことも多いですが、何もかもが新鮮！見たこともない景色ばかりで、まるで井の中の蛙だった私が、外の世界へ引っ張り出されたかのように、この世界の広さと素晴らしさを眺めています。私は日本でしっかり自立してがんばりたいと心から思っています。母のために。そして、私自身のために。

日本で暮らしたこの1年弱の間、母に会いたいという気持ちが強くなっています。もう少しで、日本で暮らし始めてから、初めての冬も終わります。長いような、短いような冬でした。私の人生と同じです。「冬来たりなば春遠からじ」。この冬が終わったら、母に「ありがとう」と言いたいです。